

いぶりの自然環境

胆振の概況 2025

● 胆振の自然と魅力〔支笏洞爺国立公園〕

支笏洞爺国立公園は、昭和24年5月16日に指定された石狩、後志、胆振の3つの管内にまたがる面積：99,473haの自然公園です。

本公園の令和5年の年間利用者数は約946万人と北海道内の国立公園の中で、最も利用者が多く、全国34（当時、現在の国立公園は35）の国立公園の中でも10番目となっています。

胆振管内では、現在も活動中である有珠山・樽前山などの火山のほか、火山活動の恩恵として、登別地獄谷をはじめ各所で湧出する温泉など、火山によって生じる様々な地形や現象に身近にふれることができます。

胆振総合振興局では、環境省や関係市町（苫小牧市、登別市、伊達市、洞爺湖町、壮瞥町、白老町）と連携して、自然環境の保全に努めるとともに、多くの方々が自然とふれあい、自然についての知識を深めることができるよう、遊歩道や案内板等の施設を整備しています。

◎支笏洞爺国立公園利用者数の推移

単位：千人

	R1(2019)	R2(2020)	R3(2021)	R4(2022)	R5(2023)
支笏洞爺国立公園	10,514	4,762	3,708	6,375	9,462
胆振総合振興局	7,843	3,399	2,672	4,764	6,886
苫小牧市	30	38	41	37	30
登別市	3,021	1,182	886	1,621	2,596
伊達市	613	311	286	515	607
洞爺湖町	2,571	1,309	1,018	1,849	2,319
壮瞥町	1,500	390	325	614	1,198
白老町	108	169	116	129	136

※北海道環境生活部：自然公園等利用状況調査

● 胆振の野生動物〔エゾシカ〕

道内のエゾシカの生息数は、ピークの平成23年度の77万頭から令和2年度には10万頭減の67万頭まで減少しましたが、増加に転じており、令和5年度は73万頭で特に胆振地域が属する中部地域において、生息数が著しい増加傾向にあるとの見解が示されています。

胆振管内のエゾシカ捕獲数は年々増加しているものも、エゾシカによる被害は増加しており、個体数の減少を中心とした被害防止対策が緊急の課題となっています。

◎エゾシカ推定生息数の推移

地域	推定生息数（単位：万頭）					
	H23	R1	R2	R3	R4	R5
全道	77	67	67	69	72	73
東部地域（オホ、釧路、根室、十勝）	39	32	31	31	32	31
北部地域（空知、上川、留萌、宗谷）	38	35	36	18	19	20
中部地域（石狩、胆振、日高）				20	21	22
南部地域（後志、渡島、檜山）	1~4	3~12	3~13	3~15	3~18	3~22

※南部地域（後志・渡島・檜山）のR3生息数は3~15万頭と推定

※北海道環境生活部調べ

◎エゾシカによる農林業被害額 単位：百万円

	R1	R2	R3	R4	R5
全道	3,797	4,067	4,474	4,847	5,145
胆振管内	238	214	322	321	361

※北海道環境生活部調べ

◎エゾシカ捕獲数の推移 単位：頭

	R1	R2	R3	R4	R5
全道	106,774	129,502	143,193	144,989	156,863
胆振管内	9,352	12,128	15,946	15,120	17,404

※北海道環境生活部調べ

◎エゾシカが関係する交通事故発生状況の推移

地域	発生件数（単位：件）									
	H23	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
全道	2,306	2,010	1,936	2,430	2,834	3,188	3,511	4,009	4,480	5,287
胆振管内	193	267	288	374	442	528	579	677	791	820

※北海道警察本部交通部交通企画課資料